

# 昭和東南海地震とは



昭和東南海地震により、崩壊した軍需工場  
(旧日清紡績道德工場 名古屋市南区)

## ● 概要

昭和19年(1944年)12月7日  
午後1時36分頃 震央：東海道沖  
マグニチュード7.9  
最大震度 6(震度7相当※)

※1923～1949年は、震度6が最大震度であったため、現在の震度階級に相当する震度として記載



震源域…紀伊半島東部の沖(熊野灘)から遠州灘にかけての領域  
(出典)地震調査推進本部「日本の地震活動」、気象庁(1968)による

### 全国の被害

死者	1,223名
負傷者	2,864名
住家全壊	17,611件
半壊	36,565件
非住家全壊	17,347件
半壊	24,473

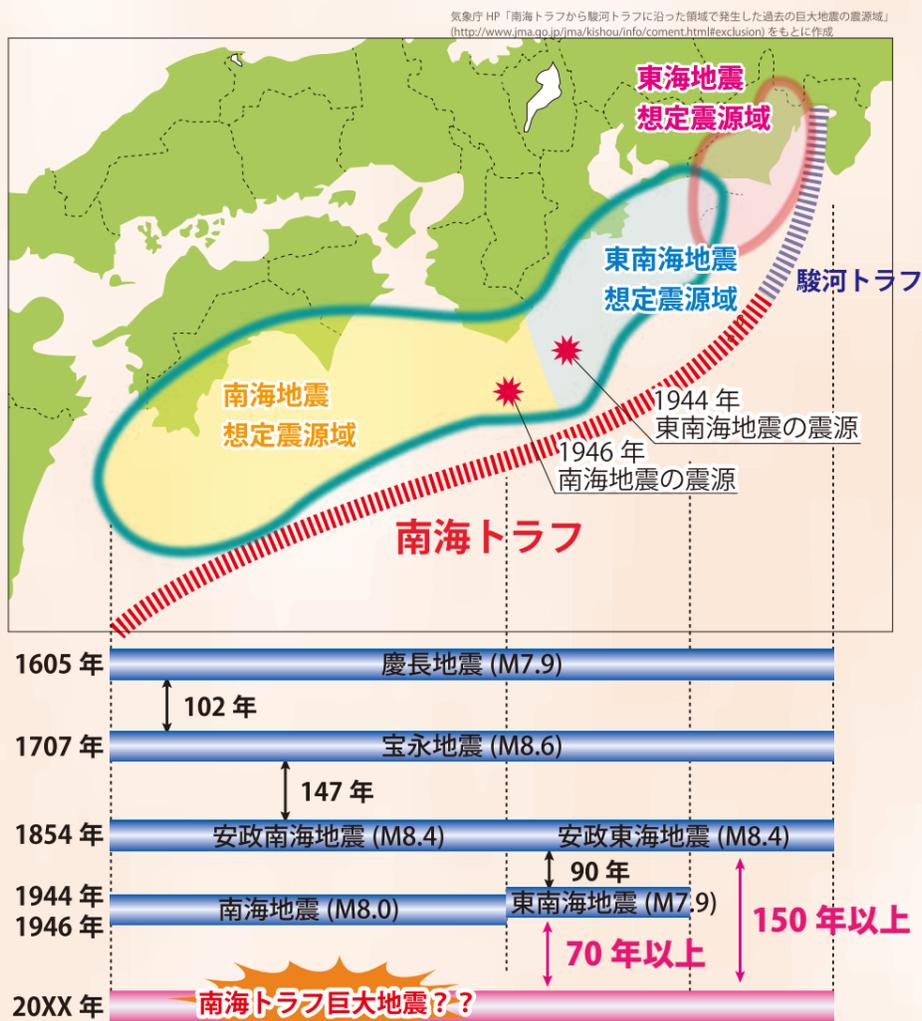
### 名古屋市の被害

死者	121名
負傷者	485名
住家全壊	1,221件
半壊	6,339件
非住家全壊	248件
半壊	902件

当時の発表によると名古屋は震度5の強震でした。震害をもとに震度の定義に従って震度分布を求めると、名古屋市南部の十数か所で震度7であったと推測できます。全国の被害の中心は、愛知県、静岡県、三重県でした。

参考：飯田淑事『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』愛知県防災会議、1977

## 1944年(昭和19年)の昭和東南海地震から70年以上が経過



現在、昭和東南海地震からは70年以上が経過しています。南海トラフの巨大地震の発生間隔がおおむね100～150年であることから、名古屋を含む該当の地域では巨大地震の発生が懸念されています。

なお、地震調査研究推進本部地震調査委員会の評価では、南海トラフでマグニチュード8から9クラスの地震が30年以内に70%から80%の確率で発生するとされています。



東南海地震の碑  
所在地：南区豊田名南ふれあい病院